図書館だより　令和４年度　第４回　愛媛県立小松高等学校　研修図書課

今年の 1 月は 10 年に一度の寒波が襲来し、寒い日が続きました。雪が舞い校庭がうっすら白くなると、校舎内から女子生徒の皆さんの童心に戻った嬉しそうな声が響いてきて、雪が積もることが少なくなったことを実感しました。2 月 4 日には立春を迎えました。まだまだ寒い毎日ですが、篤志の坂にはスイセンの花が咲き、木々の新芽も少しずつ成長を始め、春の訪れを感じさせてくれています。立春は中国で考案された季節の指標である「二十四節気(一太陽年を 24 等分したもの)」の１番目です。また、旧暦では立春のころに 1 月 1 日が巡ってきたため、立春を新しい年の始まりと捉えるようにもなりました。それが、「迎春」「新春」などの年賀状に書かれることばに表れているそうです。ちなみに、それぞれの季節の始まりが立春・立夏・立秋・立冬で、本来の節分はその前日、すなわち年に 4 回ありました。中でも二十四節気での年の分かれ目である立春前日は、大晦日と同等の意味があるとされ、節分といえば立春前日を指すようになり、豆まき、厄払いなどの文化的行事が各地で行われています。

さて、新学期が始まって、はや１か月が過ぎました。元旦には新年の目標を立てた人も多いのではないかと思います。その実現に向けての歩みは進んでいますか。「思い通りにいかないな。行動に移せてないな。」と思う人もいるのではないかと思います。また、新年の目標が曖昧だったと思う人は、(少し過ぎてしまいましたが)立春を元旦と捉え、目標を設定してはどうでしょう。自分の目標を実現させたい人必読!!　今回は、図書室で出会った本を、紹介します。

BOOK!

『13 歳から分かる！　７つの習慣　自分を変えるレッスン』　「７つの習慣」編集部監修

no image

世界で最も影響力のあるビジネス思想家であり、リーダーシップ論の権威でもあるスティーブン・R・コヴィーが 1989 年に発行した著書「７つの習慣」は 44 カ国語に翻訳され、4000 万部の売上げを記録し、20 世紀に最も影響を与えたビジネス書とも言われています。本書はそんな「７つの習慣」をより多くの人に知ってもらうために書かれた 1 冊です。原書のエッセンスをぎゅっと煮つめ、仕事を始めて２年目の青年と老人のやりとりを基に、優しい文章とユーモアたっぷりのイラストで、13 歳から読めるように分かり易くまとめてあります。

第１の習慣　主体的である
第２の習慣　終わりを思い描くことから始める
第３の習慣　優先事項を優先する
第４の習慣　自分も相手も納得できる、Win−Win を考える
第５の習慣　まず理解に徹し、そして理解される
第６の習慣　エナジーを創り出す
第７の習慣　刃を研ぐ　～自分を磨いてレベルアップを続けよう～

ぜひ本書に触れ、これらの意味を学び取ってください。事例が分かり易く、イラストや展開図を用いて表現されているので、あっという間に読めてしまいます。手元に置いて、何度も読み返すのにも最適な本です。**なんだか上手くいかないことを抱えている人、それを上手くいく方向へ変えるには、ものの見方を変える**しかありません。その手がかりが、本書にはあります。

コヴィー氏の言葉

『本当の成功を手に入れるためには、人格を磨かなくてはいけない。
そして、わたしたちの人格は、習慣によってつくられる。』

第 42 回 全国高校生読書体験記コンクール　２年３組 曾我部愛さん全国８作品に選出

今年度は本コンクールに、全国 47 都道府県から 424 校、76,163 編の応募があり、曾我部愛さんの作品が中央入賞(８編)に選ばれ、一橋文芸教育振興会賞を受賞しました。このコンクールは、多くの高校生ができるだけたくさんの本と出会うきっかけをつくることを目的に、「感想文」を綴るだけにとどまらず、読書によって自分が何に気付き、どのように行動したかを振り返ることが大切であるとの考えから、「読書体験記」とされたコンクールです。

曾我部さんは、いしいしんじ著『ぶらんこ乗り』を体験書籍に選び、**『私にとってのファンタジー』**と題して、この本の主人公と弟との関係を読み解きながら、自身のお兄さんとの関係性をリアルに描き、作品を完成させました。

〇中央選考委員　歌人 穂村 弘氏　選評

「私にとってのファンタジー」の文体には独特の生々しさがある。「きょうだい」に向けての「私」の思いは、微妙な揺らぎを見せている。時にはズレたり矛盾したりもしているような、でもそこがリアルだ。逆に引き込まれる。人間の意識についての整然とした記述など、すべて嘘とも云える。ズレや矛盾を含みながら揺れる思いのすべてが「私」の真実なのだろう。

曾我部愛さんの作品や選考委員の先生方の選評は、一橋文芸教育振興会のホームページから、検索することができます。ぜひ、読んでみてください。

また、中央入賞受賞者の在学校には、**学校賞として「集英社文庫 100 冊セット」が寄贈**されることになっています。本が届いたら図書室に設置しますので、感謝の心を持って大切に読んでください。図書室にはストーブも 2 台設置し、皆さんを待っています。たくさん借りに来てくださいね。

曾我部愛さんに聞きました!!

この本を選んだきっかけは･･･

この本は中３の誕生日に友達からプレゼントされたもののうちの１冊です。

この本で読書体験記を書こうと思った理由は、正直に言ってしまえばその時の気分ですが、とても好きな作品の一つです。

受賞しての感想は…

先生に校内で選ばれたことを告げられてから、表彰までの時間が瞬く間に過ぎてしまった感じで、本当に実感がありません。

東京での表彰式はとても緊張してしまって、当日のホテルのビュッフェを楽しみにしていたのに、全く喉を通らない程でした…。

１か月で何冊くらい読みますか？

長期の休みがないとなかなか本をじっくり読む時間は取れませんが、1 週間ほどの休みがあったら、２，３冊のペースで読みます。

愛さんにとって読書とは？

暇つぶし?!　映画やドラマを観るのと一緒です。映画を観た後、原作を読むことも多くて、映画と原作の違いを楽しんだり、どちらが面白かったか勝手に自分の頭の中で勝負させたりしています。